

2016年・

# シアトルの海外インターシップを終えて

私がこの夏、海外インターシップに参加しようと思った理由は、来年、就職活動を控えた今、会社で働くとはどういうことか、また自分にはどのような職種が向いているかのヒントを掴む事と、言語が違う国で働くという経験、英語のスキルの向上といった三つが理由でした。そして実習において意識しようと思ったのがこの3つです。

- ・オフィスワークか体を動かす職の、どちらが自分にとって働きやすいかを考える
- ・語学力の向上
- ・限られた時間の中で、どれだけの役割を与えられただけこなせるか

## シアトルでの実習

私が実習先に選んだのは、ワシントン州のシアトルにあるYMCAでした。なぜ、幾つか選択肢のある中でYMCAを選択したのかというと、次のような事が理由でした。



↑「同僚のスタッフ達との昼食の写真」

私は今までサッカーをやってきました。サッカーを通じてスポーツの楽しさを始めに、体の鍛え方やコミュニケーションの取り方を学び、それ等活かせる場所だと思った事とせっかく言語の違う国で働けるので日本人が実習先にいない事、そして、できるだけ多くの人と英語を用いて話せる機会が他の企業と比べ多いのではないかと思います。YMCAを選びました。

実習初日から9月の頭まで、夏に行われる6歳から10歳くらいの子供を対象とした、サマーキャンプという子供が集まってスポーツや物作り(小学校の授業でいう図工のような事)、レクリエーションをするプログラムの運営(子供たちの身の回りの管理、スポーツのレクチャー、運営がスムーズに行うための子供の誘導)をして、残りの一週間はYMCA内で、エントランスでのカスタマーサービスのアシスタント(お客の案内、タオルの管理、YMCA側が管理するボールやトレーニング用具の貸し出し、会員手続き

外国語学部 中国語学科3年 伊藤 陽貴

の案内、お客様の問い合わせ）や、キッズゾーンという子連れのお客様の子供を預かり一緒に遊んだり喧嘩などがないように注意を促したり、身の回りの世話をするようなサービスを提供して実習を行いました。

## 実習成果として得たもの

今回の実習で、日本人のいない環境を選び働く事ができたので、自分が話せる英語のシチュエーションが確実に増えたと思います。

また、1ヶ月と10日という短い時間のなかで、自分がどれだけ成長できるかという事を意識して仕事をするにあたって、まず自分を知ってもらう事が重要なのではないかと思い、挨拶の最低限の事を自らするようにしていました。そうすると、だんだんと自分にも役割が回ってきて、最初は子供たちがトイレを利用する際に子供をトイレに誘導したりという言語を然程用いらない役割のようなごく普通の子供たちの世話をするアシスタントから、キャンプ地向かう子供の誘導、スポーツキャンプでのトレーニングメニューの考案、子供達にデモンストレーションやティーチング、サマーキャンプの最後の週には子供たちのグループを受け持たせていただくなど、仕事の幅が増えていくのが実感できました。また、施設内では一週間と約四週間実習させてもらったスポーツキャンプと比べ短い時間しか働く事ができませんでしたが、ジム内のサービ스로貸し出しているタオル管理から始まって、週の半ばにはエントランスでお客様の案内や会員手続き、YMCA側で管理しているボールやトレーニング用具の貸し出しを任せてもらい、最後には右手左手と二つのエントラ

ンスのうち片一方を全て任せてもらったりして、裏方の仕事からお客様の前で仕事をさせていたことがありました。

また、実習中困難だった事は、言語の壁でした。人によって異なる話し方やアクセント、スピードに慣れるのが一番大変だったと思います。特に子供と話するときが大変で、理解できないところかへ行ってしまったたり、会話する際も5W1Hを用いない形で質問してくる事が多く、コミュニケーションを取るのが大変でした。自分にとって、これ乗り越えるには、めげずに継続するしかないと思いました。そうした結果、自分が言いたい事を理解できない子供に別の子供が説



↑「キャンプに参加する子供達との1枚」

明してくれたり、アクセントの修正をしてくれたりと、周りのサポートも有り徐々に楽になりました。

これらの事から、自分から挨拶しに行く事や、自分の意見を主張したりする事のような最低限の事の重要さ、思った事を行動に移す積極性等がどれだけ重要なかを再認識できました。

## 実習を通して感じたこと

今回アメリカでの実習で感じたことが幾つかあります。一つ目は、食生活です。日本では、米に野菜や肉、魚を使ったおかずがあるのがごく普通でしたが、アメリカでは、子供の昼ごはんが、ハンバーガーやトルティーヤのような肉や野菜をパンで挟んだファストフードにスナック菓子が主な昼ごはんだったことに非常に興味を抱きました。なぜなら、私は小学校の頃からサッカーや水泳といったスポーツ教室に通っていて母親は常に栄養バランスを考えた献立で料理を用意していてくれました。しかし、オリンピックでは多くのメダルを取り、野球、バスケットボール、アメリカンフットボールといった多くのスポーツビジネスが盛んなアメリカでは、どうやってあのハイレベルな選手を生み出しているのか気になりました。

二つ目は、集団で生活する際起こりうる『いじめ』についてです。自分が受け持った子で確かに他の子供と喧嘩ばかりする子供やガキ大将のような子供もいましたが、数週間同じグループで生活する中で集団での『いじめ』が起これなかったことに驚きました。日本のように全員が同じ人種でもないアメリカで『いじめ』を防ぐのは日本より難しいのではないかと思います。サマー

キャンプでも生活で確かに子供たちがいざこざを起こすことはありましたが、いざこざを起こした子供の友達がその後、加勢していざこざを再び起こすことはありませんでした。私は、言語の性格なのかもしれないが日本とは違い、小さいうちからYES/NOをはっきりする文化がこういったところでも生かされていて、一人一人がパーソナリティを持っていて、それを尊重しあった接し方がこの年代でもできているのではないかと思いました。また、私が街を歩いても、ニーハオとからかわれるようなこともなく生活しやすい環境でもありました。

三つ目は、私は去年イギリスに留学して街中は日本で言うブリティッシュ英語が飛び交っていました。中でもイギリス人は、よく swear words を使っていたのを覚えています。留学中これを学校の先生に聞いたところ、人によって異なるが、英語のリズムいアクセントをつけ格好良くする役割のほか、今ではごく普通に使うマジやヤバイといった、やや汚い感情表現として使われることが多いのだと聞いた。しかし、アメリカで実習していた当時このように swear words を聞くことがあまりありませんでした。確かに、私が実習していたYMCAでは、子供の教育という部分があったのもあり、使ってはいけないような雰囲気がありました。映画でよく聞くshitですらアメリカでは、あまり良い言葉ではないと教わったと生徒に教えてもらった事もありました。私は日本という小さな独自の文化、言語で発展を遂げてきた国で育ったので、違う国同士なのに同じ言語が通じるということはありますが、今回もこ

のように同じ言語同士なのに国によって表現が異なってくるのが興味深かったです。

四つ目は、日本の子供とアメリカの子供との読み書きの書く方の能力についてです。私は幼稚園でひらがなを習ったのが一番最初の字を書くということでした。そして、仮に漢字がわからなくてもひらがなで表現することができていましたが、アメリカの子供はそうではありませんでした。アメリカの子供に度々スペルがわからないので書いてくれと言われることがあって、どうして母国語を第二外国語である私に聞いているのだらうと思ってしまうました。以前私は、日本でしか使われない日本語が正直あまり好きではなく、GHQはどうして日本語から英語の強制をしなかったのだらうとふざけ半分で思うことがありましたが、文字の表現方法が多くて難しがられる日本語の良さをその時気がされました。

### 経験を次のステップへ

海外インターンシップを終えて今後の課題としては、単語や表現方法を増やす為の英語の勉強をする事と、もっといろいろな外国人と英語を用いて会話をして新しい知識やアクセントに慣れたりして、海外に行った時すぐに適応できるようになる為の環境作りといった日本でもできる事をどれだけできるかが大事だと思いました。また、今回のインターンシップで得ることができたモチベーションを維持して何事にも貪欲にチャレンジしていきたいと思いました。



↑「自分の受け持ったクラスでの集合写真」